

## ピーマンの斑点病（新発生）

平成 26 年、石狩地方のハウス栽培で葉に白色の小斑点を生じる症状が発生した。症状が進むと周縁部が褐色の輪紋状に拡大し、重症株では黄化し落葉した。同症状は日高地方でも発生しており、多発ハウスでは果柄にも症状が見られた。病斑上には大型で隔壁のある細長い分生子を形成した。分生子は  $55\sim 187\times 3\sim 4\ \mu\text{m}$ 、無色から淡褐色で先端が湾曲した。分生子柄は 2~4 の隔壁があり、5~10 本叢生した。病斑からは高頻度に同一の糸状菌が分離され、培地上の菌叢および分生子の形態から *Cercospora capsici* Heald et Wolf と同定した。分離菌をピーマンに接種したところ、葉の斑点症状が再現された。

（花野セ・中央農試・日高農業改良普及センター）



ピーマンの斑点病（左：葉の症状、右：重症株）（十勝農試 白井 原図）